

長崎県, 1984: 7.23 長崎大水害の記録, pp. 430.
 日本気象協会 (編), 1985: 気象年鑑1985年版, 155-156.
 二宮洗三, 1975: 集中豪雨の話, 出光書店, 84-89.
 岡林隆敏, 高橋和雄, 1982: 人的被害・災害情報の伝達, 昭和57年7月長崎豪雨による災害の調査報告書 (長崎大学学術調査団), 125-137.
 大沢綱一郎, 尾崎康一, 1957 a: 諫早方面の大水害について, 天気, 4, 273-279.
 ———, ———, 1957 b: 諫早方面の大水害について (続報), 天気, 4, 389-396.
 Osawa, K. and K. Ozaki, 1960: Rain cells on isohyetal maps, J. Meteor. Soc. Japan, 38, 135-147.
 大八木規夫, 中根和郎, 福岡輝旗, 1984: 土砂災害, 国立防災科学技術センター 主要災害調査, No. 21, 33-63.
 尾崎康一, 1965: 諫早地方の局地的豪雨について,

水理科学, No. 41, 3-14.
 自然災害科学総合研究班, 1983: 昭和57年7月豪雨災害に関する調査研究 (長崎を中心とした豪雨災害), 文部省科学研究費, No. B-57-3, pp. 136.
 坂上 務, 1969: 昭和42年7月西九州豪雨に関する研究, 昭和42年7月豪雨による災害の総合的実態的研究 (文部省災害科学・九州地区班研究報告), 5-42.
 ———, 元田雄四郎, 早川誠而, 林 静夫, 中島暢太郎, 後町幸雄, 小島隆義, 1983: 豪雨の集中度に関する調査研究 (自然災害科学総合研究班), 5-29.
 武田喬男, 1981: 対流雲と降水, 大気科学講座2 (雲や降水を伴う大気), 東京大学出版会, 107-130.
 吉野正敏, 1960: 日本における雨量最大観測値・雨量-時間曲線・雨量強度-時間曲線の特性とその分布, J. Meteor. Soc. Japan, 38, 27-46.

NEWS

世界の異常天候とその影響評価 (21)

(Climate Impact Assessment, October, 1985)

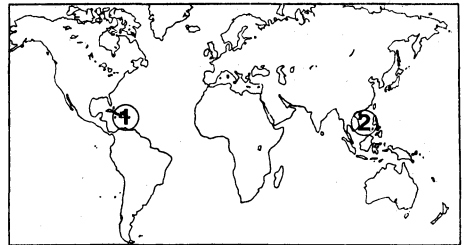
1. プエルトリコ—熱帯低気圧

10月6日～7日に熱帯低気圧 Isabel が大雨をもたらした。プエルトリコの南部と中部では洪水と地滑りが生じた。このため、死者・行方不明は数百人と伝えられ、広い範囲で資産の被害が生じた。港町ボンス (人口は16万人以上) を含む多くの地域が合衆国の災害地域に指定された。

2. 西太平洋—台風

西太平洋では今年の夏は台風の発生はやや少なかったが、10月に入ると急に増加した。ベトナム中部では、10月初めに台風19号 (Andy) が大雨を降らせ、10月半ばに台風21号 (Cecil) が襲来した。このため、農作物、家屋、通信関係に大きな被害が生じた。台風21号はその後西方に移動してタイの北部と中部に大雨と洪水をもたらした。

台風22号 (Dot) は、一時 250 km/時 (約70m/秒) もの風速となったが、10月19日にルソン島を過



過したときには、風速は 115 km/時 (約32 m/秒) にまで衰えていた。勢力が弱かったにもかかわらず、洪水が発生したため、31人が死亡し、数千人が家を失い、数千人が避難した。数日後には台風24号 (Faye) がルソン島の北東部の海岸をかすめて通過した。22号と24号による被害は予想外に小さいようである。

注: 上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

(気候変動対策室 真野裕三)